

優秀賞

— 教育委員会教育長賞 —

発電を通してもう一度

福島県立ふたば未来学園中学校2年 ^{スズキ}鈴木 ^{リオ}里桜

私の名前は富岡町にある夜の森の桜並木が由来だ。両親は私が生まれたころには夜の森の有名な桜並木のトンネルのすぐそばに住んでいて、桜が咲くころ生まれた私に「夜の森の桜並木をどこに行っても、忘れないでほしい」という思いから「里桜」と名付けた。

震災は人々から数えきれないほど多くのものを奪っていった。3月11日、あと2日で3歳になる日だった。多くの人が今までに経験したことのないほどの揺れと津波、そして原子力発電所の事故によって人々のそれまでの日常は止まった。私もその一人だと理解している。まだ小さかった私には震災の記憶がない。震災が起き、双葉郡から避難を余儀なくされた両親と私、そして祖父母は東京に避難した。幼稚園も東京の幼稚園に通った。小さい頃の記憶で覚えている一番古いものは幼稚園に通っていたころのことだ。何かが起きて東京に避難したということはその頃の私もなんとなくわかったが、なぜ避難しなければならなかったのかなんて、まだ幼かった私には全くわからなかった。しかし、震災は人々の心に深い傷跡をつけていった。

2年前、私は祖父母が暮らす浪江町に行った。まだ祖父母の家に泊まったことは一度もない。母は除染がされていても、まだ子供である私を浪江町に泊まらせることが心配のようだ。浪江町へ向かう車の中で見たのは、草が生い茂る更地、どこまでも続くソーラーパネル、人気のない建物だった。町を歩く人の姿なんてなかった。胸が締め付けられ、震災で双葉郡が大きく変わったことを実感した。

私は双葉郡が日本の再生可能エネルギーの可能性を切り開いていく場所になってほしいと思う。広野町には火力発電所がある。火力発電には、その主燃料である化石

燃料には限りがあり、いずれ枯渇する可能性が指摘されていることや、二酸化炭素を多く排出するため地球温暖化の原因になってしまうことなど様々な問題点がある。また双葉郡では過去に原子力発電を行い、震災の影響で事故が発生した。私はこのことから双葉郡が発電という面で大きなマイナスイメージを抱えていると思う。だが、プラスイメージもあると思う。浪江町には2020年、世界最大級の水素製造装置を備える「福島水素エネルギー研究フィールド」が建てられた。私はこの施設が水素を作ることに加えて、水素発電を行うこともできる場所になってほしい。水素発電は発電時のエネルギー効率が高く、水素と酸素の反応により水が生成されるだけで、廃棄物が排出されないため、脱炭素社会の実現に向け、世界的に注目されている。水素発電を原子力発電所の事故が起きてしまった双葉の地で行えば、そこには大きな意義が生まれるだろうし、ほかの場所で水素発電を行うよりも注目度が高いと思う。また過去のように雇用の場も生まれる。水素発電は双葉郡を明るく照らしてくれる存在になるはずだ。

福島は「電力県」といわれるくらい発電の盛んな県だったと聞いたことがある。あの日、津波で原子力発電所の事故が起き、大きな発電源を失った福島県だからこそ、今度は最先端の発電を通して、世界とつながっていくべきだと思う。